

柄沢憲司君 良いお年を！

本間建雄美君 五十嵐様、本日の卓話宜しくお願い致します。小林会長年度上期、今日で終わります。ニコニコBOXご協力ありがとうございました。下期もよろしくお願い致します。

横田加代子君 良いお年を！ BOXに協力。

* 公式訪問時に中條ガバナーが詠まれた歌です。

ロータリーは心の友だから

1. 公式訪問果たしつつ、いつかは帰るホームクラブ

君の声援、胸にいただき、今日も あゝ永久に愛している

ロータリーは心の友だから

2. 会員増強の希望と夢を いつかは達成する、はかないのぞみ

きみの声援を胸にいただき、今日も あゝ今でも愛している

ロータリーは心の友だから

3. 強く出席、いわないガバナーに いつかはなれると信じながら

君の声援、胸にいただき、今日も あゝ北クラブを愛している

ロータリーは心の友だから

卓 話： 「北海道で活躍した三条人——笠原文平——」 五十嵐 稔様



私は一応新潟県民俗学会に関わっていますが、民俗研究家とか民俗学者などといえるほど勉強していません。アマチュアの物好きで民俗を勉強している程度の者です。勿論郷土史研究家ではありません。

私は郷土史研究家というのはあまり好きではありませんし、そう呼ばれることを好みません。なぜ郷土史研究家と呼ばれる人達を好きではないかは、後で時間があれば少し申し上げます。

今日お話しする人物伝の様なことは郷土史家の研究分野かと考えます。

ですから私が笠原文平という明治時代に北海道で活躍した人物について語るにはあまり適していないようなのですが、4年ほど前、北海道の江別市を訪れたとき、三条人である笠原文平が、大きな足跡を残していることを知り、笠原は江別だけでなく、札幌などでも事業を興して活躍したことを知り、それをこの席で皆さんに話してみることに致しました。

時間が30分という短い時間ですので、あまり詳しく話できませんが、なぜ私が江別市を訪れたかを少しだけ触れておきます。私は「古々路の会」（ここじのかい）という民俗研究団体に属していて、毎年夏にどこかの地域の民俗学を合同調査するのに参加しています。今年夏は九州大分県日出町へ行ってきました。去年は静岡県井川地区とう長野山梨県境に近い、近年まで焼き畑農業で稗、粟などを作っていた地域にも行ってみました。数年前は瀬戸内海の孤島にも行ったこともあります。北海道江別市に篠津という地区があります。其所は明治初期、屯田兵が開拓した地域です。屯田兵という

のは、明治維新後の廃藩置県によって職を失った武士たちが北海道を開拓する目的と北海道を守るという二つの目的を持って入植した武士たちです。その後、武士の身分でない一般農民も多く北海道開拓に入植するようになりました。そんな地区の民俗を調査してみようと、江別市篠津地区を訪れたわけです。江別市は石狩川の河岸地域に開けた街で、江別太という地区に現在も越後村と呼ばれている土地があります。江別市教育委員会が編集した『史跡が語る江別の歩み』という歴史ガイドブックのなかの「開屯記念碑」の碑文の読み下しのなかに「笠原文平」の名前があることに気づきました。笠原文平は幕末から明治時代に活躍した豊かな三条商人であったことは、少しは知っていましたが江別市の越後村の開拓に大きく関わっていたことを初めて知りました。

幕末から明治にかけて、当時まだ未開の大地であった北海道に大きな足跡を残した三条人は、私達の知らない人も大勢いたかと考えられますが、皆さんがよく知っている人物では井栗の松川弁之助、札幌に百貨店を創業した今井藤七、西大崎出身で室蘭で栗林商船という会社を興した栗林五朔、この人は後に北海道を地盤にして国会議員にもなっています。少し時代が下りますが、日魯漁業という会社を興し、日本の漁業を大きく発展させた堤清六がいます。しかし笠原文平の名前はあまり知られていません。そこで笠原文平について短い時間ですので概略ですが紹介してみようかと思った次第です。

文平の家がどこにあったかについてはこのロイヤルホテルの駐車場になっている表通りの隣あたりになるのではないかと考えられます。前が現在のスーパーマーケットになるかと考えられます。文平は呉服商で三条町の一等地に店構えしていた商人です。なにも好んで全くの未開の地であった江別まで行くこともなかったのではないかとというのが一般人の考えでないでしょうか。

「北越殖民社の開拓」のなかに「大橋一蔵を中心に三島億二郎・岸宇吉、笠原文平（格一）等によって1886年（明治19年）に新潟県長岡で創立され云々・・・」という記述が見られます。大橋一蔵は現在の見附市、下鳥村の庄屋となり25歳の時に上京して長州出身の武士等と交流し、前原一誠らが起こした萩の乱に関係して懲役刑を受け後に赦免になり私立の中学校（明訓学校）を創立し校長になっています。（現在の明訓高校とは無関係）

三島億二郎は長岡の人ならよく知っているかと思いますが米百俵で有名になった小林虎三郎のあと荒廃した長岡の街を経済的な再興に努力した人です。現在の北越銀行の前身である国立六十九銀行を創立したり、古志郡長にも就任しています。岸宇吉は長岡の商人ですが街再生に士族も町人もないという方針で三島が作ったランブ会に加わり三島に協力した人物の様です。

笠原文平は三条における経済人であったことから三島と交流があり大橋が明訓学校を創立するときには多額の寄付もしています。

北越殖民社は明治19年に貧しい越後の農民を集団で北海道を開拓するために設立された民間組織です。当初その主力となったのは大橋一蔵、三島億二郎ではなかったかと考えられます。しかし、三島は明治19年の時は60歳を過ぎていましたので情熱はあったのでしょうかが当時としては老齢でした。

北越殖民社が江別太に越後村を作る中心となったのが大橋一蔵で、それを後押ししたのが笠原だったのではないかと私は考えています。

かつて三条にあって作家で郷土史家としての第一人者であった緑川玄三先生が「三条人物伝」のな